

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 人工膝関節置換術後早期における運動機能予測因子の検討 ―術前身体・精神機能と退院前運動機能との関係― 《筆頭論文》	共著	2011 年	理学療法学 38 : pp. 442-448	本研究では、術前の身体・精神的機能が人工膝関節置換術後 2 週の運動機能にどう影響しているかを明らかにすることを目的として縦断的に調査を行った。術前の自己効力感、安静時痛および非術側膝伸展可動域は、術後早期の運動機能指標である TUG の予測因子であることが示唆された。(pp7) (内田茂博、玉利光太郎、横山茂樹、川上照彦、加藤 浩、山田英司、有馬信男、山本哲司) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) 膝関節術後早期の筋力回復に伴う運動単位の活動様式の変化	共著	2010 年	理学療法科学 25 : pp. 317-321	本研究は膝関節術後早期の膝伸展筋力の回復と神経因子との関係について明らかにすることを目的とした。最大等尺性膝伸展筋力は術直後に最も低下し、13 日目以降の値は術前値と有意差を認めなかった。平均積分値も術直後に最も低下し、その後増加した。しかし、中間周波数は術後から有意に低下した。発揮する筋力を増強させ、かつ、積分値の増加と周波数の低下をもたらす因子は同期化のみである。これらのことから、術後早期の筋力回復に運動単位の同期化が関与している可能性が示唆された。(pp5) (山田英司、森田伸、田仲勝一、内田茂博、伊藤康弘、藤岡修司、板東正記、田中 聡、真柴 賛、千頭憲一郎、有馬信男、山本哲司) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (報告・発表) Factors predicting early postoperative motor function after knee arthroplasty.	共同	2011 年	16th International WCPT Congress (Amsterdam Holland) WCPT	A longitudinal study was performed to elucidate the influence of preoperative physical and mental function on motor function in the early stage after knee arthroplasty. Preoperative pains at rest, SER amount of anterior trunk motion during the action of standing up, and range of joint extension motion on the unaffected knee were indicated to be predictive factors for motor function in the early postoperative stage. (Shigehiro Uchida, Kotaro Tamari, Eiji Yamada)